

# おお大勝利

令和3年度 山東サッカー部報第5号 (10月8日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

長らく執筆を中断しておりました。私の怠慢でもあるし、やはり書きたい内容がない（公式戦があってもひどい試合だった）事情もあった。そして、下記の通り、8月9月と全く公式戦がなかった（県リーグ、地区新人<sup>1</sup>）。

## 進学校大会を経て 選手権迫る！

10月2日（土）、3日（日）恒例の**進学校大会（ライザカップ）**が蔵王坊平にて開かれました。と言っても、今回は新型コロナウイルス感染症の流行の関係で、県独自の緊急事態宣言が明けたばかり。10月から交流戦がやっと認められた（上位大会につながる大会を除く）。こんな事情により、酒田東・鶴岡南・新庄北は参加せず。山形勢の山東と山南も日帰りで参加。米沢興譲館は県リーグが2日にあったので、3日のみ参加。というところ、2日には山東と山南だけになってしまい寂しいので、セカンドチーム以下も十分強い東海大山形産を特別に誘ったら、快諾してくれた！ ということで、**2日は東海大山形・山形南・山形東で交流戦。3日は米沢興譲館・山形南・山形東で交流戦<sup>2</sup>**。ということで、今年は、数を数えると第11回の進学校大会になるのだが、正式大会ではなく、単なる交流戦。来年第11回大会となるでしょう。

プリンスリーグの昇格決定戦のある（上につながる）県リーグ1部（Y1）はずっと開催していたものの、お盆明けから県独自の緊急事態宣言発出のため2部以下は県リーグがストップしたまま。練習試合もできなかった。だから、夏場以降の伸びを試す場すらなかった。そんなわけで、**今年の進学校大会は、高校サッカー最大の大会である全国高等学校サッカー選手権大会の県予選を翌週に控えた、極めて重要なものとなりました**。例年は、実は9月までの県リーグで疲れ果て、翌週から選手権が始まるという合間の10月頭に開催されるため、「気合入り過ぎてケガしても困る」との懸念が先走ったし、進学校同士のプライドをかけた戦いではあるが、県リーグで故障し何とか選手権に間に合わせた選手を無理させるはずもないため、本気のぶつかり合いでもない。本音を言うと、何とも位置づけの難しい大会ではあったのですが、今年はシステムや戦い方、人を試す絶好の機会となりました。

それぞれの戦いは振り返らないものの、ボールを保持する試合や逆に攻め込まれる試合のどちらも経験することができ、予想通り有意義な大会でした。**山南との試合は、選手**

<sup>1</sup> 今年は、地区新人が中止となり、11月に全県トーナメントで開催することとなりました。

<sup>2</sup> 例年、たいらぐらでA戦、猿倉でB戦を行うのですが、今年はたいらぐらのみで実施。

**権で当たる可能性があるので、やりづらさはありませんが、うちは隠すものもない（隠すまでもない）**ので、相手との間合いをはかる機会があり、やはり良い経験となった。

そうそう、山東のチームグッズを供給して下さる**ミスノ**さんが、中継してくれる小売店の**ナカジマスポーツ**さん（河北町）の**渡辺社長**<sup>3</sup>を伴ってサッカーシューズの試し履きの機会を提供してくれたのですが、山東の選手がいかに用具への意識が低いかを知る機会ともなりました。天然芝で試合をするのだから、「減ったスパイク」では当然滑る。しかも、芝が濡れていたら滑りまくる。だから、**芝用のシューズとか、濡れたピッチ用のシューズを持っていなければならないのに、山東の選手、そんな準備がない**。すくなくとも、スパイク部分（スタッド）がしっかりあるシューズを履かなければならないが、そんな当たり前のところに意識が働いていない。そして、試し履きを通じて、**大きなサイズのシューズを履く癖がいまだある**ことも判明。小学生や中学生なら、成長するだろうということで、ちょっと大きめのものを利用することはあるのですが、高校生ともなったジャストサイズを履かなければならない<sup>4</sup>。まあ、指導はこのレベルからですね。

いよいよ、選手権が始まります。**今年は3年生で出場する選手がいませんし、25人登録できるのに20人もいない厳しい布陣**（登録19人）ではありますが、一生懸命頑張りますので応援よろしくをお願いします。ただし！ この大会、座席で管理できる準決勝・決勝以外は原則無観客となります（下の抜粋された要項をご参照ください）。

#### 16 連絡事項

- (15) 座席による管理の可能な施設を使用する**準決勝と決勝以外は、無観客とする**。一回戦から準々決勝までは、運営の生徒・スタッフ、試合に臨むチームの選手・スタッフ・応援部員、顧問によって認められたチーム関係者(含むアルバム業者)、マスコミ以外は、高体連専門部によって**会場として区切られたエリアに入場することができない**。準決勝と決勝の観戦の可否については、その時点での感染症流行状況をふまえ、高体連専門部により判断される。

**10月9日（土） 選手権1回戦 南陽戦 @米沢市営SF東 10:00キックオフ  
それに勝つと**

**10月10日（日） 選手権2回戦 山形南戦 @白鷹町東陽の里 10:00キックオフ**

<sup>3</sup> OBのハレル君（現在東京大学経済学部4年）の父です。

<sup>4</sup> **ジャストサイズとは、シューズをはいた時、親指部分が出っ張るぐらい**。先をつまんだ時、1cmもペシャンコになるのは問題外。最初きついけど我慢して履くと、皮が伸びて自分の足にカスタマイズされる。山東の選手全員調べましたが、合格者はゼロ。2cmも空いたぶかぶかのシューズをペリカンようになって履いている選手もいた！ 合成皮革が流行り、**皮を伸ばして履くという基本**が忘れられているということでしょうか。いずれにせよ、大きめのシューズでは蹴りづらいはずなんです（ジャストサイズのシューズでプレーすると、しっかり蹴ることができるのを実感できるはずです）。

# 8月までの活動の振り返り

前号の第4号が7月15日号ですから、7月の県リーグと8月の合宿やOB戦のレポートはまだしていないことになる。ここで一気にしてしまいますね。もうだいぶ忘れましたが・・・。

7月10日(土) Y2A 第5節鶴工戦を最後に3年生が引退し、翌週から新チームで始動。まず、**7月17日 Y2A 第6節山形明正戦**。前半0-1で粘るも、ただ粘っているだけ。山東としての見せ場なし。そして、55分過ぎから守備が崩壊し、**結局0-6の敗戦**。練習の強度の低さを痛感・反省し、改善を試みて、翌週**7月22日 Y2A 第7節東海大山形B戦**。この試合も前半0-1で凌ぐ。しかも、前の試合より相手ゴールにボールを運ぶことができている。しかし、70分過ぎから崩れ、**結局0-4**。少し攻めることができたが、逆に、攻から守への切り替えの遅さというか、根本的な体力のなさが目立つ試合となった。ただ、選手も指導者も、「前の試合より改善された(前進している)」との実感を持ってしまった。それが気のせいだったことを次節で痛感させられる。2日後の**7月24日 Y2A 第8節米沢中央B戦**。この試合から2度目の戦いに入る。1度目の戦いでは、まずまずの試合というか、相手にボールは持たれたが最後の土俵を割らない戦いを終了間際まで繰り広げ、引き分けかとの思いのよぎった試合終了直前に鮮やかな決勝点を献上し、惜敗している。「先輩越え」を果たすためには、勝ち点1以上が欲しい。そんな思いで試合に臨むも、前半から精彩を欠き、前半の粘りすら効かなかった。**前半0-3、後半0-3の完敗**。1歩前進5歩後退といった厳しい結果となった。この試合は前半から厳しかったが、やはり山東、スキルの欠如も目を覆うばかりだが、その前に、そもそもアスリートしての能力、特に、**試合終了まで走り切る体力が欠けている**。だから、後半の後半、粘りが効かなくなる。

ということで、残念ながら、8節までしか消化していないが、今年の県リーグ終了。2巡総当たりの予定でしたが、**1巡総当たりは終了しているので、昇格も降格もありというレギュレーション**。そんでもって山東は、鶴工に勝った際の勝ち点3しか得られず、**8位中7位で3部への痛恨の降格決定**・・・。これまで1部に行ったり、1部で何とか残留したりして、1部2部間のエレベーターチームでしたが、近年は2部残留がやっとだった(1部昇格は現実味のない目標だった)。こういう状態だと、やはり落ちちゃいますよね。**これまで頑張ってきた先輩方に申し訳ない降格**です。そして、**来年は山東初の3部リーグでの戦い**となります。何とか1年でまずは2部に還って来たいものです、本当に。

さて、県リーグの戦いの反省を受けて、**8月1日から4日まで3泊4日の日程で月山合宿**に入る。例年夏合宿は2泊3日で実施しているが、今年は県外遠征に行けないこともあり、県内合宿で徹底的に体力づくりをした。初日、112号線の月山の登り口に到着すると宿舎のバスを降り、112号線から練習場の弓張平公園までランニング。そして到着後、恒例の30分間のメディシンボールリレー走。5人1組くらいで縦1列でランニング

し、メディシンボールを前から後ろへリレー。最後までボールが渡ったら、先頭までダッシュ。先頭まで来たらまた後ろにボールを渡していく。その後は、これまた恒例の坂道ダッシュ。坂道の上りをダッシュし、(大股で腰を落として進む)レンジで下る。そして、もも裏の筋肉を鍛える筋トレをして、また坂道ダッシュ。それを10本。午後は天然芝のグラウンドが空いていたので、そこでサッカー。当然宿への帰りは弓張平公園から宿舎のえびすやさんまでのランニング。

二日目は、4:30起床、5:00宿から公園までのランニング開始で、7:30頃までサッカーのトレーニング。特に、ボールを奪われずに運ぶスクリーンの練習をした(自分の利き足でしかそれをできない選手がほとんど)。公園→宿の上りのランニングのあとは朝食をとる。そのあとは、午前練をせずに学習。そして15:00からももちろんランニングで下山してトレーニング。確か2日目まで、サッカー場というか陸上トラックの中の天然芝が利用できた。三日目も朝練はしたが、早めに切り上げ、朝食をとり、10:15スタートくらいの時間で、112号線から月山のリフト登り口の姥沢駐車場までの恒例の「月山登山」。約11kmくらいでしょうか。ゴール付近は「進んでいる気がしない」と言われる急な斜度。最後の3kmくらいが辛い。今年も残念ながら、60分を切った者が出ませんでした。故障者以外の全員がゴール。序二段こと坂井も、歩いているペースと変わらないと顧問から揶揄されながらも走り切りました! 午後には疲れのたまった中でしたが、苔の生えた弓張平公園の一番下にある運動広場で、タッチラグビーに興じる。他の競技させても、頭の良い選手は良いプレーができるものです(もちろん逆もまた真なり、ただこの頭の良さはもちろん学力とは別)。最終日は朝練だけして、朝食を食べ、山形に戻る。午後から山形市球技場で山形学院さんと練習試合。それが終わって、やっと長い4日間の日程終了。

8月7日(土)は、8月第一土曜日恒例の、**山東サッカーフェスティバル**。OB戦ですが、マネージャーも集うので、サッカーフェスティバルと言いたいところ。私らの頃は、学校グラウンドで照明を使ってプレーすることが少なかったからか、「ナイターサッカー」と呼んでいましたが。コロナ下なので、参加者は多くはなかったし、プレー後に中庭で寸胴のスープをみんなで啜りながら反省会をすることも今年は取りやめた。**簡素化された今年のフェスティバルだったが、コロナにも負けずに元気に実施して、来年につなげることができた**と思います。**準備して下さった後援会の皆様、本当にありがとうございました**。そうそう、この場には、私と山東同期(山東第43回卒)のA田くん(〇〇銀行赤湯支店長)の次男(中3ジェラール)も参加しプレーしました。**来年待ってるよ!**